

### 1 3 獣 害

#### (1) 種類

##### 1) ニホン ジカ

(以下 シカ)

- ・ 植え付けた苗木の新芽及び樹皮を食害する (図-98 参照)。
- ・ 地上 1.5m 位の高さまでは食害する。枝ごと折られるケースもある。
- ・ シカ被害は、4月中旬からの萌芽時期以降、新梢が伸長する6月まで続く。

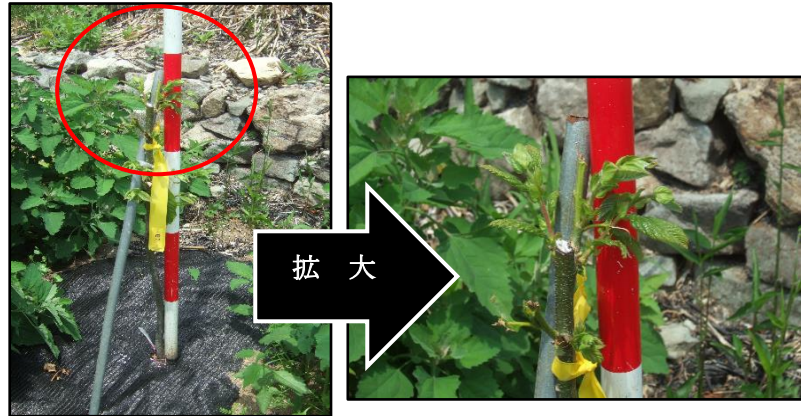


図-98 シカによる新芽食害の一例  
(美作市上山地内)

##### 2) イノシシ

- ・ 4月に入ると、防護柵も含め、定期的に園内を見回り、被害回避に努める。
- ・ 落下した果実を加害する (図-99 参照)。
- ・ 苗木を植え付ける際、稲ワラ等でマルチした場合、ミミズ等を餌に、同箇所を苗ごと掘り起こす場合がある (図-100 参照)。



図-99 イノシシによる果実  
食害 (県森林研究所内)



図-100 イノシシによる植栽苗木  
掘り起こし (勝央町黒坂地内)

- ・ 被害は園地全体に及び、壊滅的な被害をもたらすことから、4月に入ると、定期的に園内を見回り、被害回避に努める。

### 3) ノウサギ

- 根元周囲を加害する（図-101 参照）。
- 加害部はまだら模様を呈する。
- ノウサギの糞が周囲に確認された場合、加害の危険性があるので注意する。
- 被害が軽い場合（上部が生存している）は、加害部分に薬剤（トップジンMペースト）を塗布し、傷口をきれいに覆う。

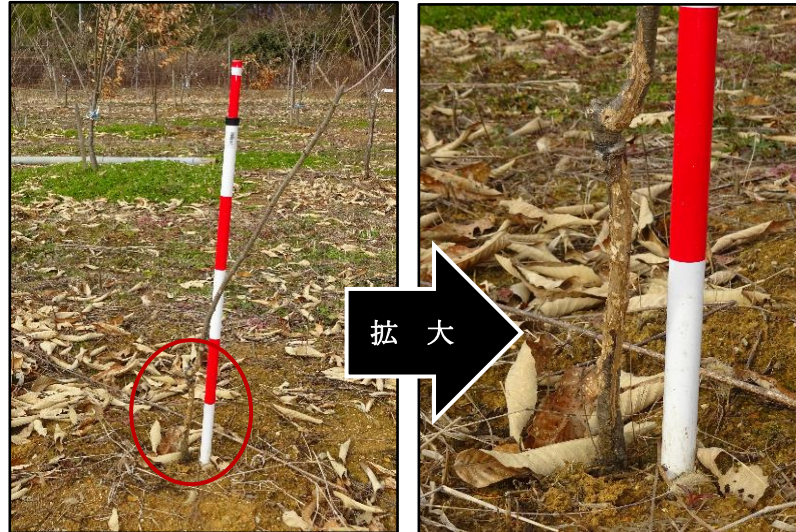


図-101 ノウサギによる剥皮加害  
(美作市宗掛地内)

### (2) 防護対策

- 電気柵、ワイヤメッシュ柵等の防護柵を、苗木植栽と同時に設置する（図-102～105 参照）。
- 電気柵は、支柱をまっすぐ打ち込み、必要に応じ、控えロープで固定する。（図-102 参照）
- 中古ノリ網の耐用年数は、最大でも設置後約2年間と考えられることから、上記防護柵を設置するまでの応急的措置としての使用に限定する（図-105 参照）。
- シカ用防護柵は高さ2m、イノシシは1m程度とする。



図-102 防護柵（電気柵）の設置事例1  
(美作市宗掛地内)





図-103 防護柵（ワイヤーメッシュ柵）  
の設置事例2（勝央町黒坂地内）

- ・ 4月上旬～10月末までの期間は、苗木（新芽・葉）及び果実の食害を防ぐため、当該期間中は防護柵を設置しておく必要がある（図-102～105 参照）。



図-104 防護柵（フェンス柵）の設置  
事例3（備前市佐山地内）



図-105 中古ノリ網による防護柵の設置  
事例4（県森林研究所内）

- ・ 中古ノリ網は、シカ対策用とし、電気柵等を設置するまでの短期間の応急措置として利・活用する（図-105 参照）。
- ・ ネットの網目が正方形になるよう張る。